

# 学部長あいさつ

人文社会科学部長 清塚 邦彦



人文社会科学部はこの4月で3年目を迎えました。以前よりも長い学部名称で名乗ることに、私個人はようやく慣れてきましたが、構内の建物表示はまだ完全には新名称に切り替わっていません。実際、4年生はまだ旧人文科学部のカリキュラムで学んでいますので、学生はどちらの学部名を名乗ったらいいか、時に戸惑うこともあるでしょう。

そんな戸惑いが大きく感じられるのは、先立つ人文科学部時代がずいぶん長かったことも一因かもしれません。1967年に文理学部が二つに分かれる形でスタートした人文科学部は幾度かの改組を経ながら、通算では49年に及ぶ長い歴史を持ちます。

では先立つ文理学部は、と遡りますと、その創立は1949年で、新制山形大学の創立と重なります。通算すると今年で70年目。今秋には創立70周年の記念行事が行われます。

しかし、人文社会科学部にはさらに前史があります。山形大学は、先立って県内にあった旧制山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校、山形県立農林専門学校が統合されてできたものです。その中で、人文社会科学部と理学部の前身にあたるのが旧制山形高等学校です。その創立は1920年

です。そこから数えると来年で100周年にあたります。

発足わずか3年目の人文社会科学部ですが、その背後には、人文科学部の49年、文理学部の18年、山形高等学校の29年という長い伝統が控えているわけです。それぞれの時代にはそれぞれの個性があるので、単純に全体を同一の組織と見ることはできませんが、そこに確かな連続性が脈打っていることは間違いありません。もちろん、その原動力となっているのは本学部で学ぶ学生、働く教職員であり、また本学部を母校として応援してくださる卒業生です。さらに、改組の前後を通じて本学部を継続的に支援して下さる地域の方々の期待も忘れるわけにはいきません。(昨年、ふすま同窓会館を訪ねた折、見せて頂いた山形高等学校関連の資料の中に、学校設置を支援する多くの市民からの寄附申込書があり、感慨深く拝見しました。)

大学の再編をめぐる論議が喧しい昨今、教育研究の場を支えてきた様々な方々の尽力について改めて思いを致している次第です。

## ナスカ研究所活動報告 遺跡の消滅と再発見:ナスカ台地付近の調査より

ナスカ研究所 松本 雄一

有名なナスカの地上絵の北側に位置するインヘニオ河谷では、山形大学のチームが2013年から調査を続けています。岩山を歩き回って遺跡(神殿・居住地・墓など)を登録していくという非常に地道で根気のいる調査ですが、5年以上の調査を経て谷全体の遺跡の分布地図がようやく完成し、地上絵を作成した人々がどのような場所に暮らしていたかが解明されつつあります。

ナスカ地域の考古学には20世紀前半にさかのぼる歴史があり、何十年も前に著名な研究者が記録を残した遺跡も数多く存在します。そのような遺跡に関してもきちんと再訪し、改めて現在の研究に照らし合わせたデータを得ることは重要な作業です。しかし、20世紀前半の調査記録をもとに遺跡を特定するのは容易ではありません。当然ながらGPS(全地球測位システム)の位置情報などは存在しませんし、出版された写真も不鮮明なことが多いのです。スケッチのような地図と当時の記述を頼りに四苦八苦しながら歩き回る日々でした。たいていの場合は何とかたどり着けるのですが、完全に破壊されてしまいどうしても見つからないものもありました。

実際のところ農地や宅地の拡大、そして盗掘で遺跡が破壊される例は枚挙にいとまがありません。この点はナスカの地上絵に関しても例外ではなく、近年破壊が大きく進んでいることが、山形大学の調査によって明らかになっています。インヘニオ河谷の調査でも無残に重機で破壊された遺跡を見ながら暗澹たる気持ちになるのはいつものことでした。考古学者の間では、「あの遺跡が壊された」とか「あそこ遺跡が工事のあとで完全に消されてしまった」などの会話が天候の話なみに頻繁になされるものなのです。

インヘニオ谷には、破壊によって姿を消してしまったと考えられている遺跡がいくつもあります。しかし、研究者の側の「破壊が進んで消えてしまう遺跡」というイメージが、今度は逆に調査にバイアスを与えてしまうこともあるのかもしれません。今回の調査データを分析している際に、1950年代の調査報告で報告された後、その後何人も研究者がその特定を試みながら果たせなかつた遺跡を再発見できた可能性が浮上してきました。ある遺跡の建築レイアウトを検討した結果、いくつもの論文で完全に破壊されてしまい、消えたものとして扱われてきた遺跡とよく似ていることが分かったのです。盗掘の被害は受けていますが大規模なものではなく比較的良好的な保存状態でした。皮肉なことですが、重要な遺跡と知られていたら、より激しい盗掘を受け、多くのデータが失われていたかもしれません。山形大学のチームでは今後この遺跡の発掘調査を行うことを検討しているのですが、これまでの定説を覆すような成果が得られるかもしれないと今から胸を躍らせています。



岩山を歩きながら遺跡を登録していく。位置情報データ、建築、遺物などを記録する。



盗掘による破壊。白く見えるのは人骨である。もともと墓域であったのだろう。